

参議院選挙の結果を受けた全国の会員、読者への呼びかけ

与党過半数割れの新たな情勢の下、逆流を許さず、大軍拡・戦争国家づくりストップの大運動を —— 2025 年日本平和大会 in 愛知へ、運動広げ仲間づくりを ——

2025 年 7 月 26 日 日本平和委員会第 1 回常任理事会

全国の平和委員会の仲間みなさん

私たちは 5 月末に開かれた第 75 回定期全国大会後、活動方針が提起した「トランプ・米国いいなりで破滅の道を歩んでいいのか——大軍拡・『死の商人』国家への道許さず、日米軍事同盟からの脱却めざす学習と署名の大運動」「被爆 80 年、核兵器禁止条約に参加する政府求める非核日本キャンペーン」「わが町を戦争の拠点にするな、平和の拠点に」（わが町運動）などに取り組み、これを 7 月の参議院選挙での平和の審判につなげようと、様々な活動を繰り広げてきました。

■国民の怒り爆発し、衆参で与党過半数割れに追い込んだ参議院選挙

7 月 20 日投開票の参議院選挙では、憲法を無視して大軍拡をおしすすめ、暮らしと平和を破壊してきた石破政権与党の自民・公明両党は大幅に議席を減らし、衆議院に続き、参議院でも与党過半数割れという状況に追い込まれました。衆参両院で与党過半数割れとなるのは、自民党結党以来初めてのことです。ここには、自公政権の政治を変えたい、とりわけ生活苦を何とかしてほしいという、広範な市民の強い意志が示されています。こうした結果を生み出す上で、1 人区での野党共闘も重要な役割を果たしました。沖縄では、「オール沖縄」の高良さちか氏が勝利し、知事選を含む全県選挙では「オール沖縄」の 7 連勝となり、名護市辺野古の米軍新基地建設や沖縄の軍事要塞化に反対する強固な意志が、改めて示されました。

衆参与党過半数割れという新たな条件のもと、いまこそ、平和、人権、民主主義、暮らしを守る市民の運動を強め、政策で一致する野党と共闘し、市民の要求の実現と自公政治の転換のために、活動を強めることが求められています。

■軽視できない補完勢力や排外主義的右翼勢力の伸長

同時に、今回の選挙で、「核抑止力」強化・憲法改悪・日米軍事同盟強化・大軍拡の路線では自公政権と何ら変わらない勢力、国民主権や基本的人権を敵視し、女性の尊厳を踏みにじり、戦前の治安維持法を賛美し、核武装や核共有を公然と唱える勢力、外国人を敵視し、差別と排外主義的主張を唱える勢力が伸長したことは重大です。参議院では改憲勢力が引き続き 3 分の 2 を占めました。これらの勢力が自民党と協力し、憲法改悪やいっそう危険な日米軍事同盟強化・大軍拡・戦争国家づくり、排外主義的政策をおしすすめる危険は軽視できません。選挙直後に示された日米関税交渉の合意なるものは、米製兵器の一層の爆買いでさらなる大軍拡・生活破壊をもたらす危険があります。私たちはこうした動きを許さないために、厳しく監視し、市民の運動をいっそう強めなければなりません。

参議院選挙での私たちの取り組みで、こうした排外主義的潮流への反撃は十分とは言えませんでした。排外主義と民族差別が侵略戦争と植民地支配の土壌となったことは歴史の教訓です。平和運動としてもこの問題を重視し、戦後 80 年の侵略戦争と植民地支配への反省とも結んで、排外主義・民族差別に反対するたたかいを強めることが求められます。

■新たな条件の下で私たちの運動と組織の強化が求められている

衆参で自公過半数割れという新たな条件のなかで、平和の要求を実現するためにも、自公政権

と補完勢力との連携を許さないためにも、決定的に重要なのは、草の根からの市民運動の強化と拡大です。核兵器禁止条約への参加と憲法に基づく平和外交を求め、日米軍事同盟と大軍拡・戦争国家づくり、排外主義に反対する日本平和委員会の役割は極めて大きいものがあります。その活動を強化し、仲間の輪を広げることが、いま強く求められています。参議院選挙後の新たな情勢を踏まえ、草の根からの平和運動を8月の被爆80年・原水爆禁止世界大会、10月25・26日に愛知県名古屋市中で開かれる「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地2025年日本平和大会」に向けて大きく広げ、平和への新たな展望を切り開くため、全力を挙げることを呼びかけます。

■被爆80年の原水爆禁止世界大会へ——参加の輪を広げ禁止条約への参加を迫る大運動を

間近に迫った被爆80年の原水爆禁止2025年世界大会は、文字通り、核兵器のない平和な世界を目指す国連・政府代表・国会議員・市民運動が世界中から合流し、被爆者や核被害者と連帯し、核戦争阻止、核兵器禁止・廃絶めざす運動を、来年4月のNPT再検討会議に向けてさらに発展させる大会になろうとしています。

被爆者の証言を胸に刻み、世界の流れを学び、実感し、日本政府に核兵器禁止条約への参加を迫る運動を大きく広げましょう。オンラインも含め、大会への参加の輪を最後まで広げ、その内容を報告会で共有し、広げる活動に取り組みましょう。

■2025年日本平和大会 in 愛知へ——学習パンフを大活用し、「わが町運動」、参加の輪を広げよう

世界大会成功の取組みと共に、2025年日本平和大会 in 愛知に向けた取組みを本格化させましょう。学習パンフレットを大普及・大活用し、学習運動を広げましょう。広範な団体や個人に呼びかけ、実行委員会を作り、「わが町の戦争拠点化」を告発し、それを跳ね返す学習会や大会を具体化しましょう。この中で、自公政権が進める日米軍事同盟強化・大軍拡・戦争国家・「死の商人」国家づくりが、核戦争さえも呼び込みかねない危険極まりないものであること、暮らしも根本から破壊するものであることを、広範な人々に知らせましょう。憲法に基づく平和外交への転換を求める世論と共同を広げましょう。自公政権が殺傷武器輸出の全面解禁、自治体・教育機関も動員した自衛官募集活動もいっそう強化しようとしているなか、武器輸出禁止署名と自衛官募集のための名簿提出反対署名も大いに広げましょう。全国から青年はじめ多数の参加者を送り出し、各地でオンライン視聴の輪を広げましょう。

■次期全国大会を仲間づくりの前進で迎えよう——年内と全国大会に向けた目標を掲げて

これらの取組みの具体化を進め、会員と市民の要求に応えた多彩な活動を繰り広げながら、全国大会で確認された「次期大会を74回大会現勢回復で迎え、4年間で会員1万7千人、平和新聞1万4千人、平和運動読者2100人回復の展望をつかもう」の目標を握って離さず、会員・読者・基礎組織づくりの取組みを進めましょう。そのためにも、これに対応した年内と全国大会に向けた仲間づくり目標をみんなで話し合い、対象者もあげて具体的に取組みましょう。この中で世代継承の視点を重視し、若い世代にも積極的に仲間の輪を広げましょう。11月1～3日に開催するピースエッグ2025in東京に向け、各地で「エッグ知る会」を開き、広範な青年に働きかけ、若い世代の仲間を増やす絶好の機会として成功させましょう。